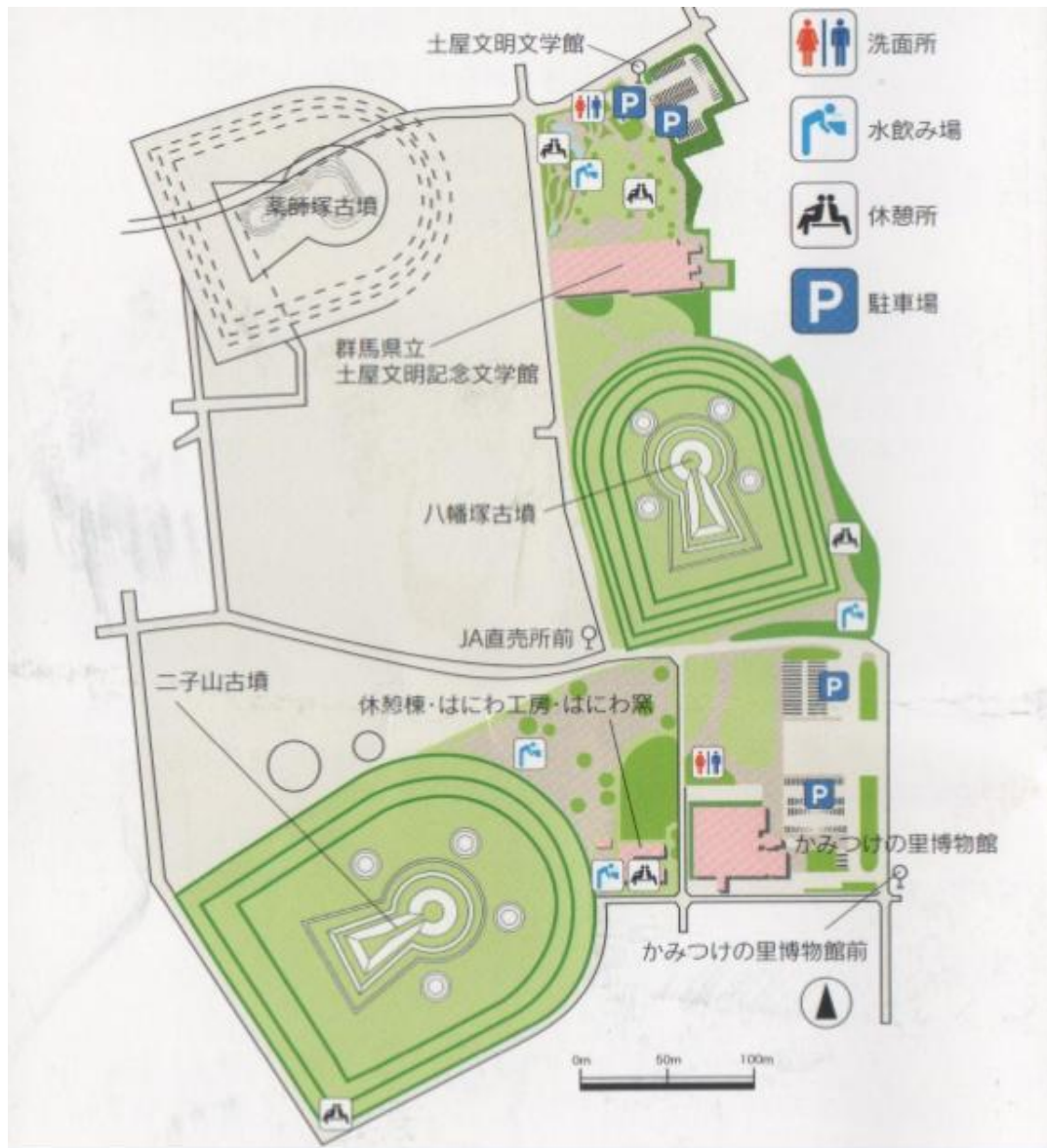


二子山古墳(高崎市)

前方が二子山古墳/五世紀第3四半期の築造





「かみつけの里博物館」リーフレットより

保造田古墳群とは。

博多山東南麓の井野川上流域にある、3墓の前方後円墳の総称です。それらは、5世紀後半から6世紀初頭にかけて、二子山古墳→八幡塚古墳→葦原塚古墳の順で造られました。当時の東日本において、きわめて優勢であった豪族たちの墓所として、国指定史跡に指定されています。

二子山古墳

本古墳群のなかで最初の5世紀第3四半期ごろに築造されました。昭和5年、帝室博物館(現東京国立博物館)の長瀬守一が初めて発掘し、内堀から埴輪片などを発見しています。平成15～17年には史跡整備の調査を行い、朝鮮半島製を含む多量の遺物破片などが見つかりました。



埴輪列と埴輪の立て直し
埴輪の立て直しは、古墳の管理が一定期間つづけて行われていたことを示しています。



豪族の棺 舟形石棺
後円部頂上の1m地中には、実物の石棺が保存されています。ここでは、実物大の石棺写真が見学できます。

中島
墳のなかに直径約18mの円い島が4つ造られています。ここでは、古墳埋葬者に対するマツリ(葬送儀礼)がおこなわれた場所のようです。



三段に築かれた墳丘
土を高く盛りあげた墳丘は、斜面に墓石が積まれ、斜面間の平坦面には円筒埴輪が列となって並べられました。後円部では、コグマ母を埋めています。

二子山古墳データファイル：墳丘全長108m／墳丘推定高9～10m／墓域の全長約213m／墓域30,000㎡／埋葬施設：舟形石棺2型穴式石棺／出土品：埴輪された埴輪の遺物(金銅製馬具・金銅製鉄器・大型円筒埴輪・在地産漆器類)

二子山古墳は保渡田古墳群で最初に築かれた/広大な2重の堀とその中に四つの中島をもつ/外堀の外側にある区画から多量の人物、動物埴輪が出土している



左手が後円部、右手が前方部



3段築成の前方後円墳で盾形の2重の周濠と4基の中島を持つ





中島は、保渡田古墳群の中では本古墳と八幡塚古墳にだけみられ、きわ立った特徴となっている/近畿地方の前方後円墳では、墳丘の裾に台形の祭壇(造出)を設けたり、堀のなかに四角い中島を配置する例もあるが、本古墳の円形の中島はそれらが地方様式化したものであろうという



中島

Inner island

この古墳の内堀のなかには、中島と呼ばれる4つの円い島がある。いずれも直径約18mで、斜面には葺石がほどこされ、円筒埴輪列が巡っていた。中島は、保渡田古墳群のなかでは本古墳と八幡塚古墳だけにみられ、きわ立った特徴となっている。近畿地方の前方後円墳では、墳丘の裾に台形の祭壇（造出）を設けたり、堀のなかに四角い中島を配置する例もあるが、本古墳の円形の中島はそれらが地方様式化したものであろう。

本古墳の北中島では、円筒埴輪のほかに須恵器大甕の破片が出土している。また、南東中島では家形埴輪片をはじめ、土師器小型壺や須恵器高坏・甕などの土器群が見つかった。中島は、古墳被葬者に対するマツリ（葬送儀礼）が行われた場所だと考えられるが、出土土器の種類がちがいがら、場所ごとに内容の異なる儀礼が行われた可能性が高い。



北中島と墳丘

Inner island

Within the moat surrounding the Tumulus, are four circular islands. Many items of Sue pottery (Grayish pottery baked at a high temperature) were excavated from these islands, and is thought to be ritual grounds for commemorating the king.

ナカジマ

墳丘周囲の護壕内に設けられた4つの円形島。ここではスエキ(須恵器、高温度で焼く灰釉の土器) 등이 출토되고 있어, 모국의 장송에 관계되는 여러가지 의식이 행해졌다고 생각된다.



中島の位置図



北中島の垂直航空写真



この古墳は、南東1kmにある豪族居館(三ツ寺 I 遺跡)を拠点として、榛名山麓の井野川流域を統治した豪族の墓である/保渡田古墳群で最初に築かれたことから、この地に進出し、山麓水源地帯を押さえて大規模な農業経営を行った人物が埋葬されていると考えられている



三段に築かれた墳丘

-The three-layered mound

この古墳の墳丘は各所で壊されていたが、後円部と前方部が接続する「くびれ部」(現在地)においては、土が厚く積もり、遺構の保存状態が良好であった。墳丘は三段に築かれ、斜面には葺石が積まれている。斜面の間には平坦面(テラス)があり、円筒埴輪が列になって並んでいた。

築造された当時の古墳には、全面に石が貼られていたのであり、石が白く輝くなかを赤い埴輪列が貫くという、じつに派手な外観をもった構造物だったのである。

くびれ部では、中央に葺石の不連続が見られ、後円部(左)と前方部(右)の双方から進んできた葺石工事が、ここですり付けられた様子が良くわかる(下の写真①参照)。また、葺石には縦に目が通った石列が一定間隔で見られる(②)。この石列は作業の単位であり、その間が各人の担当範囲だったとみられる。古墳造りが多くの人を動かし、組織的に行われたことをよく示している。



北くびれ部中段斜面の葺石と積み方の単位

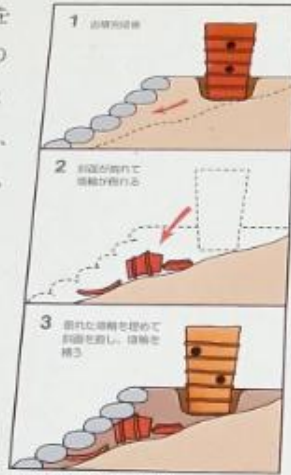
くびれ部の円筒埴輪列/一度立てた埴輪が倒れてしまったあとに、もう一度立て直した(割れた埴輪の上に新しい埴輪を立てた)ものがある/築造後も古墳が管理されていた証拠として、全国的にも珍しい例という



埴輪列と埴輪の立て直し

The aligned Haniwa

古墳の中段平坦面（現在地）には、円筒埴輪が口を
 揃って並んでいて、列になって並んでいた。円筒埴輪とは筒型の
 土器で、何本もの帯（突帯）をつけ、間に穴を開けた
 土器である。これを埴根のように幾重にも並べ、
 古墳と邪霊が侵入しないように防壁としていた。この
 ため、埴輪の立て直しの事例が確認された。
 古墳の築造からしばらくして平坦面が崩れたので、これを
 直すために割れた埴輪を下に埋め、使える埴輪を並べ直し、
 足りない部分は新しい埴輪で補っていたのである。古墳の
 維持管理は一定期間つづけて行われていたことを示す貴重な
 事例となった。



埴輪列の補修（工程図）



北くびれ部中段的埴輪列と墓石



埴輪の立て直し例①



埴輪の立て直し例②

The aligned Haniwa

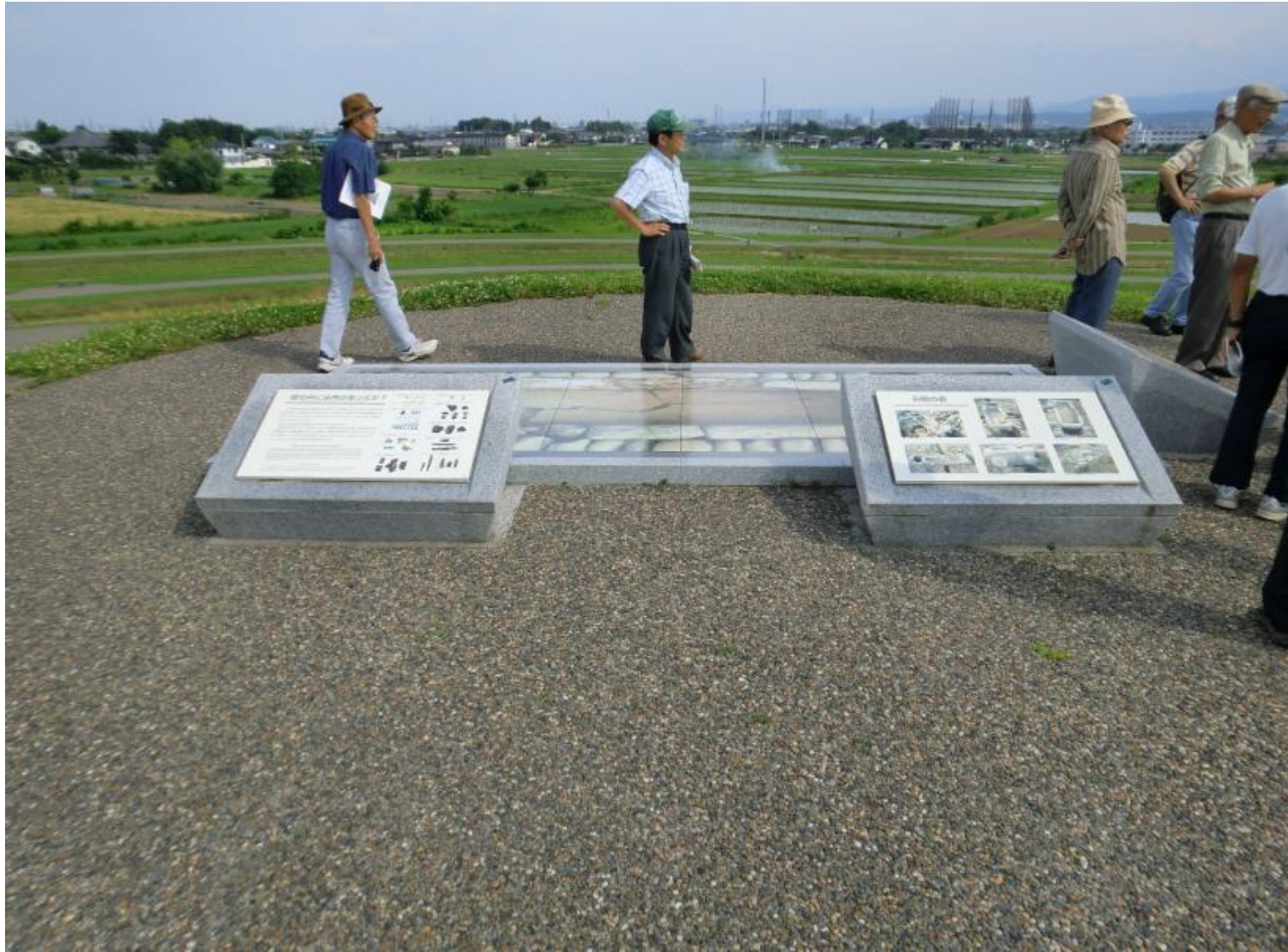
On the flat surface of the tumulus, cylindrical shaped earthenware - Ento Haniwa - were arranged in a line, serving as totems for dispersing evil spirits from the tumulus, for protection. At this spot, the restoration of the Haniwa was carried out due to the partial collapse of the tumulus.

埴輪列は、古墳の平坦面に並べられていた。埴輪は、邪霊を散らすための土器で、古墳の防壁として使われていた。このため、埴輪の立て直しの事例が確認された。









棺の中には何があったか？

What were the contents of the sarcophagus ?

この石棺は度重なる盗掘を受け、蓋を失い、棺身部も大きく打ち割られた痕がある。棺の中にあった遺物は、古くに持ち去られたらしい。平成15～17年度の調査のとき、石棺のまわりの土を持ち帰って洗浄したところ、土中に混入していた小破片の遺物を大量に見出すことができた。

破片から推定される豪族の持ち物は次のとおりである。

金製の飾金具、ガラス玉をあしらった金銅製の冠または履、雲母製装身具、金銅製馬具、金銅製胡籙（矢入れの道具）、多量の玉類（勾玉・管玉・丸玉・白玉）、鉄刀、鉄鏃（矢じり）、挂甲、鉞、鉄製農工具など。当時としては一級の品々を保有していたようであり、なかには朝鮮半島製品もみられる。

What were the contents of the sarcophagus ?

The sarcophagus had been raided many years ago, but few fragments of the artifacts were recovered. Judging from the remnants, there seemed to have been gilt bronze items, such as a crown, a pair of shoes and horse trappings. Also iron items, such as swords, a lance and some armor, along with beaded jewels, a bow and some arrows were believed to have been buried alongside the king's body. Some of these artifacts were made in Korea.

石棺の内容は 무엇인가?

石棺은 옛날에 도굴되었지만 유물의 파편들이 소량으로 남아있었다. 그것으로 추정하면 금동관(金銅冠)과 금동신발(金銅履), 마구(馬具), 옥류(玉類), 화살과 화살촉, 철도(鐵刀), 철모(鐵子), 철갑(鐵甲) 등 당시 최고와 일급 유물들이 시인과 함께 매장되었을 것으로 생각된다. 이 중에는 한반도제품도 있다.

金の飾り金具



雲母製の飾り



馬具の破片



玉類



鉄よろいの破片



冠または履の破片



刀の破片



矢を入れる武器の破片



鉞



農工具



棺は舟形石棺という形式で、古墳時代前期から中期にかけて国内の有力地域(九州北部、瀬戸内海沿岸、畿内、北陸西部、関東北西部[特に群馬県西部]など)の豪族が用いたものであるという

せつがん まがた
石棺の姿



石棺 (東斜め方向から)



石棺 (東方向から)



石棺 (西方向から)



石棺 (南方向から)



石棺 (東側の奥掛突起)



もうひとつの埋葬施設 (舟形石棺)





豪族の棺 — 舟形石棺

The sarcophagus of the king

横内部頂上(現在地)には、本古墳の主を埋葬した石棺が存在する。目前の写真は、棺身部(石棺の下側)の原寸大写真で、現物の真上に位置する。石棺は、頂上に置かれた方形の穴(5.3×7.6m)の中央に置かれ、まわりには多量の石が詰められていた。本来は、棺身部に遺体と副葬品を入れ、棺蓋をのせて土中に封じてあったが、古くに盗掘されてしまった。棺は舟形石棺という形式で、古墳時代前期から中期にかけて国内の有力地域(九州北部、瀬戸内海沿岸、畿内、北陸西部、関東北西部(特に群馬県西部)など)の豪族が用いたものである。この棺身は長さ3.0m、幅1.2m、高さ1.0mで、側面に複数の突起(縄掛突起)がある。棺の幅がやや広い東側が豪族の頭の位置である。また棺の西には、遺物を入れる石組みの空間が設けてあった。石棺の石材は、高崎市南部の観音山丘陵から凝灰岩を切り出し、10kmほど運んできたものだ。

なお石棺の横には、小型の壙穴式石椁(木棺を石で囲んだもの)もあった。豪族の近親者が、後に埋葬されたものと考えられる。

The sarcophagus of the king

On the summit of the mound, was buried a large sarcophagus with a length of 3 meters. This particular shape of sarcophagus - a boat-shaped stone coffin - was preferred by kings around Japan during the 4th and 5th centuries. The stone used for this sarcophagus was carried from a hill 10 kilometers south of this tumulus.

墳丘頂

この墳丘頂上には長さ3mの舟形石棺が埋められていた。この石棺は、観音山丘陵(高崎市南部)から凝灰岩を切り出し、10kmほど運んできたものだ。



墳丘の埋葬地



二つの埋葬施設(舟形石棺の設置後、しばらくしてから小さな壙穴式石椁も設置している)

豪族の棺 — 舟形石棺

The sarcophagus of the king

後円部頂上（現在地）には、本古墳の主を埋葬した石棺が存在する。目前の写真は、棺身部（石棺の下側）の原寸大写真で、現物の真上に位置する。石棺は、頂上に掘られた方形の穴（5.3×7.6m）の中央に置かれ、まわりには多量の石が詰められていた。本来は、棺身部に遺体と副葬品を入れ、棺蓋をのせて土中に封じてあったが、古くに盗掘されてしまった。

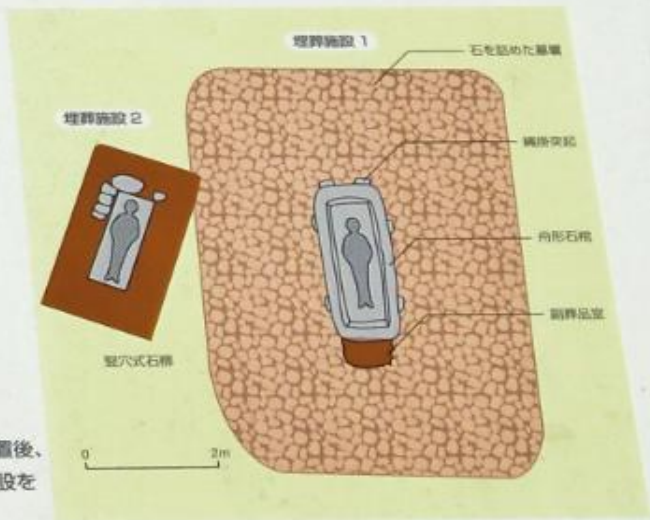
棺は舟形石棺という形式で、古墳時代前期から中期にかけて国内の有力地域（九州北部、瀬戸内海沿岸、畿内、北陸西部、関東北西部〔特に群馬県西部〕など）の豪族が用いたものである。

この棺身は長さ3.0m、幅1.2m、高さ1.0mで、側面に複数の突起（縄掛突起）がある。棺の幅がやや広い東側が豪族の頭の位置である。また棺の西には、遺物を入れる石組みの空間が設けてあった。石棺の石材は、高崎市南部の観音山丘陵から凝灰岩を切り出し、10kmほど運んできたものだ。

なお石棺の横には、小型の竪穴式石槨（木棺を石で囲んだもの）もあった。豪族の近親者が、後に埋葬されたものと考えられる。



豪族の埋葬施設



二つの埋葬施設（舟形石棺の設置後、しばらくしてから小さな埋葬施設を追加している）







史跡保渡田古墳群

National Historic Site

二子山古墳

Futagoyama Tumulus

保渡田古墳群とは

保渡田古墳群は、播磨山東南麓の井野川上流域にある3基の前方後円墳の総称である。それらは、5世紀後半から6世紀初頭にかけて、二子山古墳（本古墳）→八幡塚古墳（墳丘長96m）→藤原塚古墳（同105m）の順で造られた。当時の東日本において、きわめて優勢であった豪族たちの墓所として国史跡に指定されている。

二子山古墳の概要

■規模・構造

本古墳群で最初に造られた二子山古墳は、墳丘長108mの前方後円墳で、まわりに内堀と外堀を巡らしている。外堀まで含めた総長は213mあり、墓域の面積は約30,000㎡と広大である。また、内堀の中には円形の中島（祭祀場）が4つ存在している。墳丘の頂上に設けられた埋葬施設は、大型の舟形石棺である。

■墳輪の配列

この古墳からは多量の埴輪片が発掘され、おそらく数千本の内筒埴輪が墳丘や内堀・外堀に並べられていたと推定される。器財・家・人物・動物をかたどった形象埴輪の破片もみられ、内堀の北側に並んでいたようだ。外堀の北西には、大量の人物埴輪を出土した保渡田VII遺跡があり、この古墳と密接な関わりをもつと考えられる。



保渡田古墳群跡地図



内堀七塔



保渡田古墳群跡の空撮（本古墳の墳丘が二子山古墳＝豊後川）



二子山古墳発掘調査時の航空写真（平成15年度）



墳丘下段の北堀内

■古墳に寄り添う群集墳

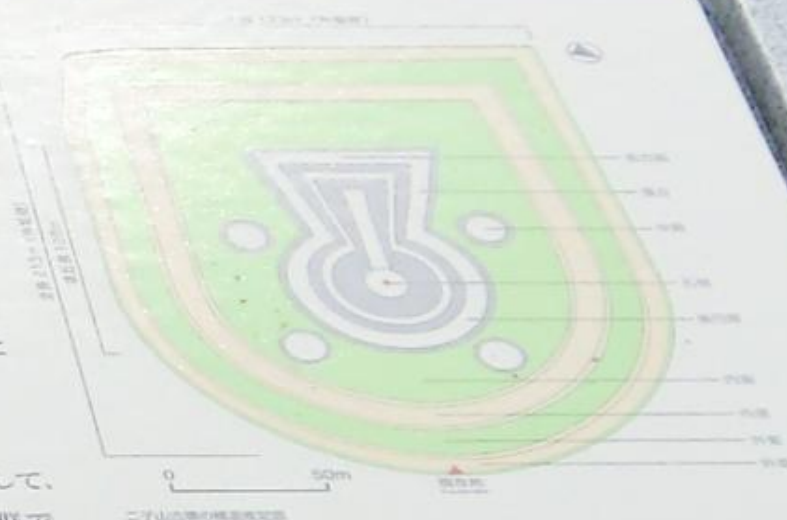
本古墳の西側には、同時期の群集墳（小型古墳の集合）がある。帆立貝形古墳・円墳・円筒墳輪棺の3階層が認められ、二子山古墳の豪族を支えた人々の墓と考えられる。

■二子山古墳の整備

本古墳の整備方法は、発掘前の墳丘の形状をできるだけ変えない手法で行い、堀の部分のみ形を再現した。北方にある八幡塚古墳は築造時の姿に復元されているが、それと本古墳とを比べることで1500年間の時の流れを体感してほしい。この二子山古墳も往時は葬石をほどこした「石の山」であったが、次第に草木に覆われ、今のような形に変化したのである。

■二子山古墳の豪族像

本古墳は、南東1kmにある豪族居館（三ツ寺遺跡）を拠点として、榛名山麓の井野川流域を統治した豪族の墓である。保渡田古墳群で最初に築かれたことから、この地に進出し、山麓水源地域を押さえて大規模な農業経営を行った人物が埋葬されていると考えられる。当時の群馬県地域（上毛野）は、わが国のなかでも優勢な地域のひとつであった。二子山古墳の被葬者は、その上毛野を代表する人物であり、政治の中心であったヤマト政権（奈良県・大阪府地域）や朝鮮半島諸国とも深い関わりを有していたと考えられる。









前方は復元竪穴式住居







参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/GUNMA/gunmamati/hutago.html>

<http://members3.icom.home.ne.jp/yoshi-cp/ghotoda.htm>

<http://beccan.blog56.fc2.com/blog-entry-2094.html>

<http://paralleli.life.coocan.jp/kofunblog2/?p=46>

